

今年の干支は戊戌！どんな一年になるのでしょうか？！

下に示したように、今年2018年は、戊戌（つちのえいぬ）の年です。私の誕生日は1958年11月9日なので、一つ前の戊戌の年の生まれということで、なんと還暦を迎えることとなります。一つ前の戊戌の年の1958年には、皇太子と美智子様（現天皇后両陛下）の婚約、一万円札の発行、東京タワーの完成、インスタントラーメン（日清食品の「即席チキンラーメン」）の発売、軽自動車スバル360の発売、フラフープの大流行、ロカビリーブームなど経済面・生活面での変化の大きな年でした。果たして今年はどうなるのでしょうか。

干支	訓読み	音読み	1924-1983	1984-2043
1 甲子	きのえね	こうし、かつし	1924	1984
2 乙丑	きのととうし	いっちゅう	1925	1985
3 丙寅	ひのえとら	へいいん	1926	1986
4 丁卯	ひのととう	ていぼう	1927	1987
5 戊辰	つちのえたつ	ぼしん	1928	1988
6 己巳	つちのとのみ	きし	1929	1989
7 庚午	かのえうま	こうご	1930	1990
8 辛未	かのとのひつじ	しんび	1931	1991
9 壬申	みずのえさる	じんしん	1932	1992
10 癸酉	みずのとのと	きゆう	1933	1993
11 甲戌	きのえいぬ	こうじゅつ	1934	1994
12 乙亥	きのとのい	いつがい	1935	1995
13 丙子	ひのえね	へいし	1936	1996
14 丁丑	ひのととうし	ていちゅう	1937	1997
15 戊寅	つちのえとら	ぼいん	1938	1998
16 己卯	つちのととう	きぼう	1939	1999
17 庚辰	かのえたつ	こうしん	1940	2000
18 辛巳	かのとのみ	しんし	1941	2001
19 壬午	みずのえうま	じんご	1942	2002
20 癸未	みずのとのと	きび	1943	2003
21 甲申	きのえさる	こうしん	1944	2004
22 乙酉	きののとのと	いつゆう	1945	2005
23 丙戌	ひのえいぬ	へいじゅつ	1946	2006
24 丁亥	ひのとのと	ていがい	1947	2007
25 戊子	つちのえね	ぼし	1948	2008
26 己丑	つちのととうし	きちゅう	1949	2009
27 庚寅	かのえとら	こういん	1950	2010
28 辛卯	かのととう	しんぼう	1951	2011
29 壬辰	みずのえたつ	じんしん	1952	2012
30 癸巳	みずのとのみ	きし	1953	2013
31 甲午	きのえうま	こうご	1954	2014
32 乙未	きのとのひつじ	いつび	1955	2015
33 丙申	ひのえさる	へいしん	1956	2016
34 丁酉	ひのとのと	ていゆう	1957	2017
35 戊戌	つちのえいぬ	ぼじゅつ	1958	2018
36 己亥	つちのとのと	きがい	1959	2019
37 庚子	かのえね	こうし	1960	2020
38 辛丑	かのととうし	しんちゅう	1961	2021
39 壬寅	みずのえとら	じんいん	1962	2022
40 癸卯	みずのとのと	きぼう	1963	2023
41 甲辰	きのえたつ	こうしん	1964	2024
42 乙巳	ひのとのみ	いっし	1965	2025
43 丙午	ひのえうま	へいご	1966	2026
44 丁未	ひのとのと	ていび	1967	2027
45 戊申	つちのえさる	ぼしん	1968	2028
46 己酉	つちのとのと	きゆう	1969	2029
47 庚戌	かのえいぬ	こうじゅつ	1970	2030
48 辛亥	かのとのい	しんがい	1971	2031
49 壬子	みずのえね	じんし	1972	2032
50 癸丑	みずのとのと	きちゅう	1973	2033
51 甲寅	きのえとら	こういん	1974	2034
52 乙卯	きのととう	いつぼう	1975	2035
53 丙辰	ひのえたつ	へいしん	1976	2036
54 丁巳	ひのとのみ	ていし	1977	2037
55 戊午	つちのえうま	ぼご	1978	2038
56 己未	つちのとのと	きび	1979	2039
57 庚申	かのえさる	こうしん	1980	2040
58 辛酉	かのとのと	しんゆう	1981	2041
59 壬戌	みずのえいぬ	じんじゅつ	1982	2042
60 癸亥	みずのとのと	きがい	1983	2043

**** 1月生まれの「偉人・著名人の名言」 ****

＜ビートたけし＞（1947年1月18日～）

1947年に東京都足立区に生まれる。本名は北野武。東京都立足立高等学校から明治大学工学部（現理工学部）機械工学科に進学したが、大学での生活には適応できず、除籍となる。1980年代初頭に起こった漫才ブームの中でシニカルな笑いを得意とする漫才コンビ「ツービート」で人気を獲得し、「THE MANZAI」（フジテレビ）、「オレたちひょうきん族」（フジテレビ）、「天才・たけしの元気が出るテレビ!!」（日本テレビ）、「ビートたけしのスポーツ大将」（テレビ朝日）、「痛快なりゆき番組 風雲!たけし城」（TBS）、「世界まるごとHOWマッチ」（毎日放送）などに出演し、番組が大ヒットした。1990年代頃より司会業や映画監督業を中心に活動するようになる。立川談志一門でもあり、高座名「立川錦之助」を持つ。近年は落語を口演する際、立川談春から一字もらい「立川梅春」を名乗っている。1986年の「フライデー襲撃事件」、1994年のバイクによる自損事故などにより、芸能活動から遠ざかった時期があったが、近年は映画監督 北野武としての活躍がめざましく、『その男、凶暴につき』（1989年）、『HANA-BI』（1997年）、『菊次郎の夏』（1999年）、『アウトレイジ』（2010年）、『アウトレイジ ビヨンド』（2012年）、『アウトレイジ 最終章』（2017年）などの監督作品がある。2010年にはフランス芸術文化勲章の一つであるコマンドゥール章を受章した。明石家さんま、タモリと共に、『お笑いBIG3』と称されている。

天才とは、運と才能と、あと努力…。ごく普通のことを人一倍やった人だよ。そして運は必要だよ。

今の社会は、人生とは何かとか、人間の生きる意味は何かみたいなことを言いすぎる。若い人には、それが強迫観念になっている。何かとそういうことを言う大人が悪いのだ。自分たちだって、生きることに死ぬことの意味なんか絶対にわかってないのに。

成功の秘訣は、いちばんなりたいたいものじゃなくて、その人にとって二番目か三番目の、違う仕事に就くこと。自分にはもっとやりたいことがあるんだけど、今すぐにそれをできる能力はないから違うことをやっています。それぐらい自分を客観的に見られるやつのほうが、成功する可能性は高い。

芸人をやって映画監督をして、ビートたけしをして北野武でもいるといういまの人生は、本当に疲れる。

映画は「間」で決まる。これはもう完全にそう。

自分を客観的に眺めて、生きていくことを演出するとしたら、一番の理想は、いい映画を撮れたときに死ぬことだ。しかし、映画っていうものは完成した瞬間に、気に入らないところが次々に見えてくる。自分の映画に、満足することはない。満足するようじゃ映画監督なんて続けられない。だから俺も、生きることに興味がなくなるといって、いざ死神があらわれたら、こう言ってしまうような気がする。「あと1本だけ映画撮らせてくれねえか」人間、歳を取るとずうずうしくなる。

自分は漫才師になったので今がある。物理学の道に進んでいたら、もう既にノーベル賞を取っている。

変な言い方だけど、自分のために死んでくれる人間が何人いるよりも、そいつのためなら命をかけられるって友達が1人でもいる方が、人間としては幸せだと思う。

子供の教育で大切なのは、タガのはめ方と、外し方なのだ。タガを外しすぎれば、桶はバラバラになってしまう。タガをきつくはめすぎても長持ちしない。

人は何か一つくらい誇れるものを持っている。何でもいい、それを早く見つけなさい。

将来はさ、将来はみんな不安なんだよ。でもそれをあえて出さないほうが、男としては、かっこいいと思わない？

人の命は、2万分の1でも8万分の1でもない。そうじゃなくて、そこには「1人が死んだ事件が2万件あった」ってことなんだよ。

夢を持って目的を持って、やれば出来る。こんな言葉に騙されるな。

※「フライデー襲撃事件」やバイクによる自損事故を起こした頃のビートたけしは、反社会的なエネルギーの塊のような人物で、とてつもない大事件を巻き起こしたり、大事故に巻き込まれて早死にしてしまうのではないかと、見ていて気が気でなかった。歳を取るにしたがって、外部にほとぼしっていたエネルギーは内向していき、映画制作に向けられ、「世界の巨匠」北野武として認められるようになり、「ヴェネツィア国際映画祭」「トロント国際映画祭」など海外の映画祭でも様々な賞を受賞している。そんな日本を代表する映画監督となった北野武の言葉に耳を傾けてみよう。

